

高齢化社会を乗り越えるヒント

－内村鑑三の転機となった漁村の取り組みから考える－

関和美

NPO 法人安房文化遺産フォーラム

【はじめに】

千葉県南部、房総半島にある館山市富崎地区は、マグロ延縄漁発祥の地として古くから栄えた漁村であり、画家の青木繁が、名画『海の幸』を描いた場所としても有名である。しかし近年では、水産業の衰退に伴い、少子高齢過疎化が深刻となっている。地域の現状を懸念した住民たちは、地域を元気(健康)にできないかと考え、取り組み始めた。

【富崎地区の取り組み】

少子化のため休校中である館山市立富崎小学校の正門を入ってすぐの場所に、明治期の富崎村長・神田吉右衛門の大きな顕彰碑が建っている。アワビ漁を村営化・共有財産化し、その収益で学校設立をしたり、コレラ流行時には予防のために奔走したりといった公益事業を推進する村長であった。その人物像について、キリスト教者としても有名な内村鑑三は「余が聖書研究に従事するに至りし由来」において、水産伝習所の教師時代、実習で富崎を訪れた際の神田との出会いが、人生の転機になったと記している。

先人の功績を学んだ住民たちは、敬意をこめて顕彰碑を磨き上げるとともに、忘れ去られた歴史文化の調査や、解説看板づくりなどを自主的にはじめた。足元の歴史文化を学び、それを活かすことにより、衰退しつつある地域と、そこに暮らす人びとが、元気(健康)で持続可能なまちとなるように、取り組んでいるのである。

【館山市の施策と富崎地区における取り組みに対する効果】

住民たちは、地域の歴史文化を学ぶことにより、衰退しつつある地域への誇りを取り戻している。そして、学んだ歴史文化を活かしながら社会活動をすることにより、生きがいがある。この事例は、2015年3月に策定された「館山市高齢者保健福祉計画」の「社会参画・生きがいづくり活動」という項目や、「生涯学習のまちづくり宣言」・「長寿健康宣言」という行政の施策とも重なっている。富崎地区の取り組みは、高齢化社会を乗り越えるヒントを、私たちに教えてくれているように思える。

【今後の課題】

富崎地区での取り組みに触れ、自分にも何かできることはないかと考えるようになった。房総地域には、医療従事者が、図書館や文化活動を盛りあげたという歴史があるという。私も富崎の人びとのように、図書館・文化活動を盛りあげた先人から学び、それを自分なりの方法で活かすことにより、図書館業界やこの地域のために、少しでも寄与できればと思う。